



防災ニュース 40号

～自然災害に備えよう～

2023年3月
車返西防災委員会

令和元年10月12日に日本に上陸した台風第19号(東日本台風)は、記録的な大雨で甚大な被害をもたらし、府中市政65年で初めて避難勧告が発令されました。まだ記憶に新しい方も多いと思います。

令和元年東日本台風で大増水した多摩川
(写真「府中市防災危機管理課」)



明日、起こるかもしれない 自然災害に備えよう!!



平成23年3月11日に発生した東日本大震災から12年の月日がたちました。当時、震災への備えについて誰もが考えたはずですが、しかし、災害の記憶は徐々に薄れていきます。

災害への備え、進んでいますか？

今年に関東大震災から ちょうど100年。

今日から災害に備えよう



東日本大震災の時、スーパーマーケットの棚から食品や日用品が無くなり、不安な毎日を過ごした経験があるのではないのでしょうか。いざという時に備え、今のうちから災害備蓄をしておきましょう。

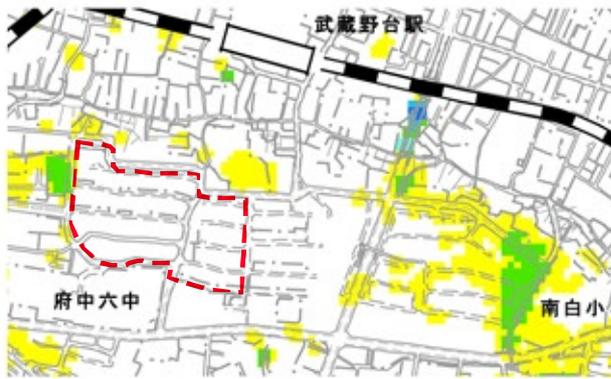
ローリングストックをしてみよう

- ① 食べ物や日用品を少し多めに購入し、
- ② 日常生活で少しずつ消費し、
- ③ 使った分を補充する

期限切れで備蓄品を無駄にすることがなく、上手に災害への備えができます。



内水氾濫



出典「東京都下水道局流域下水道本部」



想定しうる最大規模の大雨が降った場合に、下水道や浸透マスで雨水を処理することが出来ずに、浸水が起こります。

一街区および南白小の周辺は浸水区域が広がっているため、小学生のお子様がいるご家庭は特に注意が必要です。



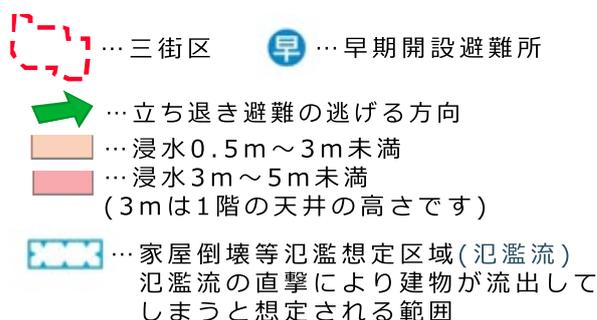
● 浸水時にマンホールのふたが開いていることがあり、大変危険です。

三街区全域が浸水想定地域！

多摩川の氾濫



出典「府中市防災危機管理課」



三街区ハザード

このハザードマップは、三街区周

水害時の避難所

- ・ 白糸台文化センター
- ・ 府中第四小学校
- ・ 白糸台小学校

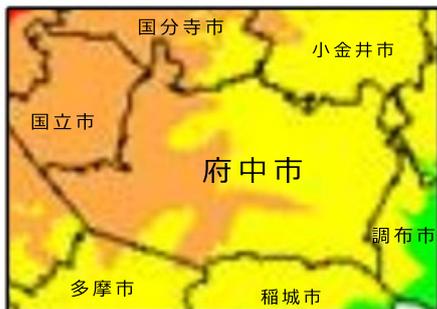
左図は、多摩川氾濫時の浸水想定地域です。三街区は、早期避難の重要性は極めて高い地域と言えます。

- 水害リスクが高い場所は事前に避難すること！
- 避難前に浸水が生じてしまった場合や、外出することでかえって命の危険が及ぶような場合、棟の階段の上階に避難するのが有効！

● 散歩がてら、天気の良い日に避難所までの道順を歩いて確かめておこう！



府中市に震度6強の地震発生!?



立川断層帯地震震度分布(令和4年版)

震度6強 震度6弱

※立川断層帯地震

…府中市地域防災計画において被害が最も大きくなると想定されている地震です。

死者56人、負傷者1020人

令和4年に見直された立川断層帯地震による府中市の被害想定(出典「東京都防災会議」)

首都圏では、今後30年以内に70%の確率で大地震が発生すると言われています。府中市では、**震度6弱～6強の地震**が予想されています。



ガードマップ

周辺の危険な場所を表しています。

震災時の避難所
・府中第六中学校

●ライフラインの被害

立川断層帯地震（冬の夕方6時）が発生したときの府中市の被害想定

- ・水道断水率 16.7%
- ・下水道管渠被害率 3.6%
- ・電気停電率 5.9%
- ・ガス供給支障率 33.0%
- ・固定電話不通率 2.7%

●ライフライン復旧のめど

阪神・淡路大震災に発生した地震被害において、ライフラインが被害を受けて機能が停止してから、約9割程度まで復旧するのに電気は約1週間、水道や下水道は1か月～3か月程度の期間を要しています。

すさまじい破壊力で襲ってくる!



出典「府中市防災危機管理課」

大雨や長雨によって多くの雨水が地面にしみこむと、地面が柔らかくなり斜面などで土砂が崩れて押し寄せる現象です。

土砂災害の予兆現象を確認したら、府中市から避難情報が発令されていなくても**一刻も早く区域外に避難**してください!

- …土砂災害警戒区域
- …土砂災害特別警戒区域



土砂災害の予兆現象



がけから小石がパラパラと落ちてくる

がけから水が湧き出している

がけに割れ目が見える

トイレの水を流してはいけない!?

大規模災害時、断水していたらお風呂の残り水を使って流そうと考えるのではないのでしょうか？
ところが、排水管が破損した場合は汚水が溢れ出すことがあります。最悪の場合、**階下で排水を溢れさせ、大変な迷惑をかける恐れがあります！**
震度5以上の地震では、**破損が無いか確認できるまでトイレの水を流してはいけません。**しかしながら、確認できるまで何日もかかる場合があります！

仮設トイレが被災自治体の避難所にいきわたるまでの日数



出典「日本トイレ研究所」



震災時のトイレ問題を考えよう

「災害備蓄」で真っ先に思い浮かべるのは水や食糧です。でも実は、トイレ問題も本当に深刻なものです。

指定避難所にトイレはありますが、**仮設トイレもすぐには設置されません。**そこでこの度、住民の皆さまに「非常用トイレ袋」の配布を行いました。トイレ袋は吸水シートがセット済みで、1枚450mlの水分を吸収しジェル化します。排泄後は紐付きの袋を縛って密封し、衛生面・臭いにも配慮されています。

大規模災害時、食事はガマンできても、トイレはガマンできません。いざという時のために、非常用トイレは必須の備えと言えるでしょう。



非常用トイレ袋
(くるくるトイレ)

くるくるトイレの使い方



皆様にお配りした「くるくるトイレ」は、都の助成金を利用して購入し、防災委員会(管理部)で手配・梱包・配布まで行いました。

非常持出袋も準備しよう!!



台風や大雨、地震など、災害が差し迫ってからは間に合いません。時間的ゆとりのあるときに、**非常持出袋を用意しておきましょう。**
日頃から内容や賞味期限等を確認しておきましょう。



防災ニュースは、自治会ホームページからダウンロードできます。
<https://kurumagaesi.com/>